

広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想（案）に対する市民意見募集結果

区分	主な意見の概要	本市の考え方
1 こども文化科学館の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の延べ床面積、階数の表示はあるが、敷地面積の表示がない。こども文化科学館、こども図書館の敷地の配分、敷地面積を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> こども文化科学館の敷地面積については、こども文化科学館展示リニューアル基本構想(案)(以下「本基本構想(案)」という。)に記載のとおり、2, 328. 67㎡となっています。
2 基本構想の策定 (展示リニューアルについて)	<ul style="list-style-type: none"> こども文化科学館展示リニューアル構想(案)を拝見し、子どもがわくわくするような仕掛けがたくさんある魅力的な内容に、今からとても楽しみにしている。 大規模な改装で大変とは思いますが、とても魅力的なリニューアル構想で、大変楽しみにしている。 科学って面白い！世の中ってすごい！と感じる子どもが広島で1人でも増えてほしいと心より願っている。 大人になって改めて見ると理解できた科学の面白さもあったが、もっと新しく体や五感で楽しみ、より科学に興味を持ちやすい展示があるとよいと思ったので、リニューアルは嬉しい。 中央公園にあるファミリープールの半減(工事中)、サッカースタジアムの新設(建設中)、サッカースタジアムへの通路の建設、旧市民球場跡地への商業施設の建設、更に中央図書館・映像文化ライブラリーの移転案により、こども図書館・こども文化科学館の環境が激変、悪化している。このことをどう考えて、構想案が練られたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを中心に、幅広い世代の方々が、わくわくしながら科学に触れ、繰り返し来館いただける魅力ある施設となるよう、こども文化科学館のリニューアルに向けて、基本計画の策定等の取組を進めてまいります。 令和2年3月策定の「中央公園の今後の活用に係る基本方針」において、中央公園及び周辺地域を含めた空間づくりの方向性を定めています。 この空間づくりにおけるゾーニングにおいて、こども文化科学館は、「こどもゾーン」に位置しており、併設するこども図書館や隣接するファミリープールとの連携を強化するなど、こどもゾーン全体として魅力向上を図っていきたくと考えています。 こうした視点も踏まえながら、本基本構想(案)を作成したものです。
(青少年センターの移転等について)	<ul style="list-style-type: none"> こども文化科学館のスペースがリニューアル以前よりも狭くなるのはなぜなのか。「青少年センターの機能を拠点として残すため」としているが、全く理解できない。中央図書館が広島駅前のエールエールA館の8～10階に行くようなので、青少年センターの機能は、その8階の青少年のフロアに移すべきである。そのほうがお互いにとってメリットがある。中途半端なものにしてこの二つを同居させるのには反対である。 青少年センターの機能は別の場所で整備し、十分な広さを確保した上で、安心して訪れることのできる施設にしてほしい。 青少年センターの統合計画はどうなっているか。 建築から40年以上経過した建物をリニューアルするだけで、機能拡充や必要なスペースが確保できるだろうか。建替えとまでは言わないが、増築は必要と考える。こども文化科学館の展示スペースだけでなく、アポロホールのバックヤード、研修室、併設のこども図書館も書庫などのスペースが足りなくなっている。さらに、青少年センターの機能まで入れてしまおうというのだから、行政に本当にこれまで以上に充実した施設にしようという気概があるのか疑ってしまう。内部で検討するだけでなく、管理者である広島市文化財団の関係者や利用者に意見を求めるべきである。 良いことが並んでいて、特に問題のあるものは含まれていないと思料。しかし、全て実施するとすれば展示スペース、予算、人的体制にも現状を大きく拡充する必要がある。したがって、具体的なイメージをある程度詰めた上での意見募集でなければ、適切な意見募集にはならない。図書館問題同様、最後は現場に無理難題を押し付けるようなやり方は改めるべき。 今後、基本計画、設計が進んでいくことと思うが、是非、現場の意見を大事にしてほしい。指定管理なので、難しい部分もあるかもしれないが、日頃から広島の子どもの様子を間近で見ている現場の職員の方の意見はかなり重要である。 基本構想(案)を検討された会議は公開されているのか。会議の公開、議事録の公開を求める。また会議の構成員は人物の名前を公開できる人から人選すべきではないか。市民や議会への情報提供は十分だと考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> こども文化科学館については、青少年センターの一部機能移転により、面積が減少することが見込まれますが、今後、同センターや、併設のこども図書館を含めた三つの施設の特性や利用者の利便性等を踏まえ、ゾーニングや動線等について検討することにしており、これら施設が連携して、より魅力ある施設となるよう検討を進めていきたいと考えています。なお、建物の増築については、現時点では考えていません。 また、本基本構想(案)は、市民アンケートや、同館のスタッフ、有識者等(広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会)からの意見聴取、他都市調査なども踏まえつつ策定したものです。今年度策定予定の基本計画について、引き続き、利用者や有識者、こども文化科学館のスタッフから意見聴取するなどして検討を進めることにしています。 なお、広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会の構成員や会議の概要等については、本市ホームページにおいて公開するとともに、本基本構想(案)については、令和5年3月7日開催の広島市議会総務委員会に報告しています。

区分	主な意見の概要	本市の考え方
3 展示リニューアルの方向性		
(1) 基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 2階の鉄道ジオラマは他にはない規模の大きな展示物だと思っており、どこかへ残してほしい。 今のような展示をしっかり残して、新しいこども文化科学館にしてほしい。具体的に残してほしい展示は、1階の電気に関する展示、2階の音声認識、電車の模型、3階全体、PNR4号(5号にしてほしい)、ぴょん太のオルゴール、地震に関する展示、光の展示、クロマキー、ぴょん太。新しく入れてほしい物は、こども文化科学館の歴史、目の錯覚ランド、「ぴょん太と学ぼう！」シリーズ(プログラミングや地球環境など)。 体験型の展示が増えることで、子どもが自分から「知りたい、学びたい」と能動的に関わるようになる。楽しんで学ぶということは、子どもの育ちや学力向上に最も必要なことである。 是非、アナログ中心という考え方は貫いてほしい。子どもたちはデジタル中心の世の中で生きていくことになるが、だからこそ、その根本であるアナログ的な部分が重要になってくると思う。また、デジタル中心の展示は、更新コストの面でも課題がある。仮に、最新の技術を使って作ったとしても、2～3年後には最新ではなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の展示は、体験的な手法による展示を中心としており、リニューアル後においても、こうした手法を継承しつつ、参加体験型展示の更なる充実を図ることにしており、より魅力的な展示内容にするため、今後、検討を深めてまいります。 頂いた御意見は、具体的な展示内容の検討を行う上で参考にいたします。 本基本構想(案)に記載しているとおり、リニューアル後においても、現在と同じように、アナログ的な展示(機械的な装置)を中心として展示を展開したいと考えています。
(2) 4つの視点		
① 広島の魅力発信(地元企業等との連携強化)	<ul style="list-style-type: none"> 大学や企業で使うような機器を使えたり、試作や実験で助言がもらえる環境があればよい。マツダに協力してもらい、EVや水素車の1台まるごと分解展示してはどうか。部品ごとの仕組みや技術も一緒に学べる。さらに、県内企業の最先端技術やオンリーワン技術を定期的に入れ替え、展示するのはどうか。企業の製品や技術を子ども、一般市民に知ってもらう機会にもなる。 広島は企業も大学も多いので、かなり充実した展示・企画になることが期待できるが、こうした展示を作るのは簡単ではない。企業・大学に任せてしまうという方法もあるが、単に企業の宣伝になったり、難しい研究発表になったりする。効果的にこうした展示や企画を行うには、マンパワーの充実が不可欠である。 地元企業の取組などを紹介する企画や展示コーナーを作り広島の魅力を伝えることで、中高生だけでなく大人に対するアピールにもなり、地元の魅力やこれからの可能性に興味を持ち、進学による転出超過を防ぐ対策につながるかもしれない。 企業の持つ科学的な技術を分かりやすく説明することで企業広報にもなり、来館者の興味も高まり、地域性も出せる。館への出資も期待できるであろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、「他都市の科学館にはない、広島ならではの魅力発信を目指すため、地元広島の企業や大学等との連携を強化する」こととしています。 企業との連携については、他都市の科学館では、行政と地元企業による展示コンテンツの共同開発、地元企業の技術を紹介する常設展示ブースの設置や企画展の開催などの事例があります。 こうした事例などを参考に、今後、地元企業等との連携方策について検討を深めてまいります。 頂いた御意見は、検討を行う上で参考にいたします。
② 幅広い世代が科学を楽しみ、学べる展示展開	<ul style="list-style-type: none"> もう少し幅広い年齢層をターゲットにしてはどうか。中高生には物足りないのではないか。 子どもが安心して楽しめることは前提として、学生になっても、大人になってもいろいろな人が楽しめる展示や大人の創作教室などをもっと増やしてもらえると嬉しい。 親子三世代で楽しく学べるものにしてほしい。 館名に「こども」が入っているのは、中高生～大人の世代が積極的に参加しづらい状況を生んでしまうので、もったいない。開館からの経緯があるとは思いますが、正式名称はともかく、せめてネーミングライツの名前には「こども」を入れないなど工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、「子どもから大人まで幅広い世代が科学を楽しみ、持続的な学びを可能とする展示展開を目指すため、最先端の科学技術の紹介や、家族など複数人が一緒に参加体験できる展示手法の導入などを図る」こととしています。 こうした視点を踏まえ、今後、具体的な事業活動について、検討を深めてまいります。 頂いた御意見は、検討を行う上で参考にいたします。
③ より深い学びのための交流機会等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 展示物については、正直古いと言われているが、科学への興味の入口として基本的なものと感じる。もう少し、その仕組みの説明があれば、子どもへ説明しやすい感はある。 展示に関して解説が少なく分かりづらく感じる。リニューアルに際しては、なぜこうなるのかを小さな子どもにも伝わりやすく、納得感の強い展示が増えればよいと思う。 学芸員さんにもっと子どもと関わってほしい。サイエンス教室以外で、来館者に対する展示の使い方、面白い部分、社会での応用、関係図書のお薦め…、設備さえあれば子どもが勝手に吸収するのではない。適切な導きが不可欠である。是非、子どもを科学の入口に誘ってほしい。展示は一通り触るとおしまいになってしまうかもしれないが、人との関わりは飽きさせない。何度も通うきっかけにもなるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、「科学的な見方や考え方など、より深い学びにつながるよう、利用者との交流機会等の充実を目指すため、展示装置のみで完結するのではなく、専門家であるスタッフやボランティアなどが介在した展示解説などを充実する」こととしています。 こうした視点を踏まえ、今後、具体的な方策について、検討を深めてまいります。 頂いた御意見は、検討を行う上で参考にいたします。
④ 社会的な課題に対する学びの充実	(御意見なし)	

区分	主な意見の概要	本市の考え方
4 事業活動の展開		
(1) 常設展示等		
①常設展示 ア 取り扱う分野等	<ul style="list-style-type: none"> ・展示内容の方向性について、プラネタリウムと併設されていることを利点として、宇宙科学の分野を中心に、身近な科学を体験できる、身体を動かしながら楽しめる展示を整備する。最新のAI技術や高度な科学技術を導入すると設備を更新するのが大変である。全てを網羅しようとするのではなく、小学校低学年くらいまでをターゲットとして考え、あまり複雑で専門的な内容ではなく、科学に興味を持てるよう促す、導入的な内容の展示にすればよいのではと考える。 ・展示物やゾーニングについて、何もかも取り入れようとせず、何を取捨選択するのか慎重に検討してほしい。 ・市内に特徴的な施設がたくさんあるので、科学館としては、それらの施設にうまくつなげる役割を持つというのもよい。例えば、お天気のことに関心を持った人に、気象館に行ってもらおうなど。 ・江波山気象館と機能が分離してしまっているのももったいない。気象館があつた場にある意味も理解しており、残してほしい建築物ではあるが、集約することで設備もマンパワーもより充実すると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本基本構想(案)に記載のとおり、常設展示の取り扱う分野については、科学分野全体を網羅的に取り扱うのではなく、これまでの物理や工学など理工系の分野を中心としつつ、天文の分野も内容の充実を図っていきたいと考えています。 ・また、他の博物館等と連携した取組を行うことによって、子どもたちの学びの広がりにつなげていききたいと考えています。 ・なお、現時点では、江波山気象館の集約化は考えていません。
イ 展示展開の考え方 ウ 展示展開のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・「創造とチャレンジ」の節において、天文学・宇宙物理学分野における近未来科学分野として、月基地建设や火星探索などのテーマ展示も取り上げ、JAXAやNASAとの連携を進める。これらにより、プラネタリウムのコンテンツに厚みを付け、少年少女に実現可能な夢の舞台を提供する。 ・一つの興味がいろいろな方向に広がるような展示にしてほしい。 ・展示をアーティスティックに見せている場所もあると楽しそうである。 ・様々な機械や科学技術は日進月歩で大人でも追いたくても追いきれない日常を感じている。費用をかけた常設展示ではなくてもパネルや映像等でも十分ではと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いた御意見は、今後、具体的な展示内容の検討を行う上で参考にいたします。
②プラネタリウム事業	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムで恐竜の映画を上映されるのはとても有難い。是非、リニューアル後もいろいろな映画の上映をお願いする。 ・座席も全席から投影が見やすい向きに配置したり、席の向きを変えられるなどできたらよいと思った。コンサートや演奏もできる幅が広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウムでは、季節の天文現象や宇宙科学の最新情報、広島オリジナルの自作番組を中心に投影を行うほか、投影された星空の下での音楽コンサートの開催や、宇宙や自然などをテーマにした映像をドームスクリーン全体で楽しめる全天周映画の上映、BGM・アロマと合わせて星空を投影するリフレタリウムなど、幅広い年齢層に向けた事業を展開しています。リニューアル後においても、投影プログラム等の充実を図りたいと考えています。 ・また、平成27年度にデジタルプラネタリウムを導入し、28年度には座席幅を広げるとともに、リクライニング機能を追加するなど座席の全面取り替えを行っていることから、全面的なリニューアルは予定していません。なお、老朽化したドームスクリーンについては、展示リニューアルに併せて更新を検討することにしていきます。

区分	主な意見の概要	本市の考え方
(2)ソフト事業		
①企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な期間限定の特別展を開催する、そのための展示スペースを設けることは可能であろうか。(例：国立科学博物館「恐竜博」、日本科学未来館「宇宙に夢中、発信中！～宇宙遊泳、月面調査」等)。特に、恐竜博物館は広島県にはなく、せめて特別展でみる機会があると嬉しい。その他にも、改装後に入りきらなかったジャンルの分野を特別展という形で補える機会があると嬉しい。 科学館同士の連携については、中四国には、中小規模の科学館がたくさんあるので、うまく連携・協力できれば、面白いことができるのではないかと思います。将来的には、どこかの科学館で作った展示が、中四国の幾つかの館を巡回するといったことがうまくできれば理想である。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展示は、常設展示を補完し、展示全体としての魅力を維持・向上させることを目的として、こども文化科学館の3階において実施しています。 リニューアル後においても、本基本構想(案)に記載のとおり、地元企業や大学、他都市の科学館などとも積極的に連携・協力を行い、多彩なテーマで企画展を開催し、幅広い世代の来館者やリピーターの増加につなげていきたいと考えています。 頂いた御意見については、具体的な取組の検討を行う上で参考にいたします。
②教育普及事業 ア ここではできない体験の展開	<ul style="list-style-type: none"> 楽しんで学ぶということは、子どもの育ちや学力向上に最も必要なことであるため、体験型展示だけでなく、サイエンスショーや手作り工作教室など人と人が関わるような活動、親子体験型の企画をすることも強く求める。 小学校高学年、中学生をフォローする方法として、こども文化科学館内のアポロホールで国内外の著名人や有識者が登壇する講演会、大がかりなサイエンスショーなどのイベントについて、企画や運営にも積極的に関わってもらえる方法も考えられる。 個人では購入しにくいプログラミングやCGなどの産業用ソフトウェア、3Dプリンター、旋盤、レーザーカッター、オシロスコープ、AIやドローンなど、子どもから大人まで試作、実験、工作ができるような機器、工具などを自由に使えるラボ的な空間を提供してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、ここではできない体験の展開として、科学教室やサイエンスショーなどソフト事業の充実を図ることにしており、その展開例として、スタッフが来館者の目の前で実験を実演するテーブルサイエンス方式の科学実験やフリー工作の場の提供、地元企業や大学等と連携した講座の開催などを挙げています。 頂いた御意見については、具体的な取組の検討を行う上で参考にいたします。
イ 館外まで広がる活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 街中でプラネタリウムが見れる嬉しさの一方で、街明かりでいい星空が見えないのは残念である。そこで、呉市かまがり天体観測館や三次、大崎上島、庄原など星を見るのに適した場所や施設と連携してイベントなどができるとう利用者も楽しめ、お互いのためによいのではと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、館外まで広がる活動を積極的に行うこととしており、その展開例として、学校や地域へ出向いた天文教室の実施などを挙げています。 現在も、広島大学東広島天文台での天文観察を行っており、今後も、こうした館外活動に取り組んでいきたいと考えています。 頂いた御意見については、具体的な取組の検討を行う上で参考にいたします。
ウ 学校教育と連携した活動の展開	(御意見なし)	
エ こども図書館と連携した活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 科学館と図書館の連携はとても魅力的だと感じており、とても楽しみにしている施設の一つである。そこで、親が子どもに読み聞かせできるスペースを作っていただくことは可能だろうか。せっかくのこども図書館であるので、周りの方に気兼ねなく、声を出しながら絵本を親子で読めるスペースがあると嬉しい。是非、一人で読むことができない小さな子どもにも科学と本をスムーズに連携できる機会を設けていただけないだろうか。 ターゲットを幼児から小学校低学年に絞り、サイエンスショーや工作教室に力を入れる利点として、こども図書館の来館者の増加が見込まれる。日頃仕事で忙しく、自宅で本を読んでやる時間がない保護者も、家族でこども文化科学館を訪れた後、こども図書館で本を借りて帰るといったルーティンができれば、家族で本に親しむ機会が増え、育児支援にもつながる。さらに、子どもの施設の充実や更なる活用は、子育てしやすい街づくりにもつながり、少子化対策の一端になるのではないかと。今回のこども文化科学館展示リニューアルについては、様々な可能性を秘めた事業であると考えているので、少子化が進む今だからこそ、慎重に、真剣に取り組んでいただきたい。 こども図書館と併設しているのだから、一体化させることもできるのではないだろうか。展示と関係する科学絵本をその近くに置くなど、児童向け自然科学系図書がこども文化科学館にあれば、せっかく生まれた興味をより深めることに役立つ。 星や宇宙に興味を持った矢先に、こども図書館で関連した本を読めるのはとても魅力的で、この連動性は大切にしてほしい。 こども文化科学館リニューアル基本構想(案)では、こども図書館については、「併設施設」であるとの記述のみとなっている。こども文化科学館とこども図書館とは一体のものではないのか。こども図書館との関係を、内容も含めてどのように考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)において、こども図書館との併設の強みを活かし、こども図書館と連携した活動を展開することにしており、その展開例として、こども文化科学館とこども図書館とを子どもたちが気軽に行き来できる空間の整備や、科学絵本の読み聞かせとその絵本に関連する実験、企画展示に合わせたこども図書館での関連図書コーナーの設置などを挙げています。 頂いた御意見については、具体的な取組の検討を行う上で参考にいたします。

区分	主な意見の概要	本市の考え方
5 スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 改装中の約2年間、閉館するとのことだが、子どもたちが科学に触れる機会が減ってしまうのではないかと心配である。閉館中も、屋外などを利用し、科学に触れることができるイベントを開催していただけるととても嬉しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事に伴う休館期間中においては、館外における実験やイベントの実施など、学校や地域等に出向くアウトリーチ活動を積極的に展開したいと考えています。
6 その他	<p>(施設整備等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 外観に華やかな装飾、デザイン性等はいらないので、そこを削った分、耐震性、安全性、展示物の充実に充ててほしい。 施設内の設備について、トイレの整備、授乳室・休憩室の確保、監視カメラの設置、バリアフリー化などを行うことは当然である。 全年齢を対象として、勉強や会議、情報提供するため交流スペースの充実も必要である。研修室には電子黒板を導入し、他県の博物館や科学館などとネットにつながり情報共有をするなど、小中高生だけでなく大人も研究会や勉強会に使用できるシステムや部屋があれば、来館者や利用者にとって、更に親しみやすい施設になる。 基本構想(案)では地下一階に電気室・変電室がある。災害時(浸水)に備えて地上階に置くべきではないか。 <p>(人員等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> (利用者スタッフの交流機会の充実に関して)今よりも業務を増やすのであれば、人員の増強が不可欠である。決してボランティアを単なる無料の労働力と捉えることがないようにお願いしたい。ボランティアにとっても生涯学習になるような仕組みが理想である。 (企画展に関して)人員と予算の充実が不可欠である。企業・大学・他の科学館と連携するから予算はあまり要らないだろうとならないように願う。 館外事業を増やせば増やすほど、人員・予算も必要である。 教育普及事業の4つの柱に、追加いただきたい柱がある。それはサイエンスサポーター(仮称)と称する、企業人やそのOB、理系大学生などの市民で構成するボランティアであり、学芸員と協働ワークにより教育普及事業を実施するもの。人的資源をパートナーとし、運営面においても開かれた博物館であることを表明することは重要であるとする。 展示内容を維持するための人材はどのように確保するのか。人材養成も含めて見解を示してほしい。 <p>(運営等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントの参加申込みが往復ハガキというのが非常に不便なので、早急にWEBでの申込みができるようにしてほしい。 集客目的を主たるとするならば、近隣の施設のリニューアルもあるので、SNSなどに力を入れることで、多数の興味を得ることは可能かと思う。 SNSの活用や積極的な情報発信も必要である。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入館料は現在無料であるが、改装後に有料となる場合は年間パスポートがあると嬉しい。 施設建設のための財政、建設費用が明示されていないのはなぜか。素案的なものだけでも金額を提示すべきである。 	<p>(施設整備等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本基本構想(案)は、展示リニューアルの方向性や事業活動の展開などを内容とするものです。 頂いた施設整備等に関する御意見については、今後の施設改修に係る基本設計や実施設計等の検討を行う上で参考にいたします。 <p>(人員等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者スタッフとの交流機会の充実や企画展示・教育普及事業のソフト事業の充実を図るため、今後、具体的な方策や取組について、指定管理者等とも協議し検討していくことにしており、これに併せて、必要となる人員体制や予算についても、検討したいと考えています。 <p>(運営等について)</p> <ul style="list-style-type: none"> イベントのWEBでの申込みについては、昨年度から一部で実施し、SNSでの情報発信については、今年度から実施しており、今後も拡充を図ってまいります。 現時点では、リニューアル後に入館料を有料とすることは考えていません。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 展示内容が、ある程度具体的になった段階で、展示施工費を算定することにしており、これを含め事業全体の概算経費を基本計画で明示したいと考えています。

※この表は、こども文化科学館展示リニューアル基本構想(案)に対応させた整理としています。